

UNIVERSAL TOURISM × REHABILITATION

ユニバーサルツーリズムの現状 リハビリテーション専門職が観光の現場へ

ユニバーサルツーリズムを通じた、笛吹市のまちづくりへの挑戦
甲州リハ・サポツアーセンターの取り組み

医療法人銀門会 理事長
甲州リハビリテーション病院 院長
甲州リハ・サポツアーセンター センター長

佐藤吉冲



「幸福寿命」という考え方



健康寿命

介護を受けず、心身ともに自立して生活できる期間

身体的な自立度を測る指標
生きることの質までは表さない



幸福寿命

心が満たされ、生きがいや喜びを感じながら過ごせる期間

障がいがあり、車いすが必要になっても
笑い合い、味わい、心動かされる幸福はある

調査年	男性（山梨）	全国順位	男性（全国）	女性（山梨）	全国順位	女性（全国）
H22 (2010)	71.20年	5位	70.42年	74.47年	12位	73.62年
H25 (2013)	72.52年	1位	71.19年	75.78年	1位	74.21年
H28 (2016)	73.21年	1位	72.14年	76.22年	2位	74.79年
R1 (2019)	73.57年	2位	72.68年	76.74年	2位	75.38年
R4 (2022)	73.47年	3位	72.57年	76.16年	4位	75.45年

健康寿命が尽きた後も、幸福寿命は延ばすことができる
2040年にむけた医療・地域づくりの本質的な目標

BACKGROUND

私たちの原点 —— 石和温泉と当院

山梨県笛吹市の石和温泉に隣接する当院は創業61年。温泉地の歴史とともに、その役割も変化してきました。



1961

石和温泉、開湯

新興温泉地として発展し、周辺に温泉病院が数多く設立



その後

新興温泉地の停滞

社員旅行の減少などにより、歓楽街中心の温泉地は次第に活気を失う



制度変遷

温泉病院からリハビリ病院へ

医療制度の変遷とともに、リハビリテーション病院としての役割を担う

甲州リハビリテーショングループ

医療法人銀門会・社会福祉法人寿ノ家・株式会社サンライフ寿
37事業 802名

温泉から始まる医療と観光は、それぞれ地域にとって大切な役割を果たしながらも、これまで横断的に連携する仕組みは十分ではありませんでした。

TURNING POINT

課題意識の高まり



新型コロナウイルスの流行

温泉地が大きな打撃を受ける



東京オリンピック・パラリンピック

障がい者の社会参加、機運が高まる



誰もが楽しめるまちづくりへ

障がいがあっても、高齢であっても、安心して
温泉地を楽しめるように

健康寿命を失った方々の幸福寿命を、医療者の手で支えたい
活力のない温泉地を私たちの力で元気にしたい

THE SPARK

転機 ―― 吉田均名誉教授からの提案

地域おこしや観光振興（山梨県の観光や国際観光文化交流など）のスペシャリスト



山梨県立大学

吉田均名誉教授からのご提案

「病院が地域の観光資源と結びつくことで、患者の社会参加と地域経済の双方に貢献できる」
「温泉地が求めているのはハードウェアだけでなくソフトウェアの力が必要である」



基本方針 2 医療機関との連携【重点方針】

本市には温泉を利用したリハビリテーション病院が多数存在しており、その数は全国屈指と言えます。医療・福祉分野においては、特にユニバーサルデザインの促進が求められており、本市でも積極的に取り組んでいくべき課題の一つとなっています。ユニバーサルデザインは、国籍や文化、言語、年齢や障がいの有無に関わらず、全ての人が利用できる製品、建物、環境、情報であり、医療・福祉分野と同様に、観光分野においても、ハード及びソフトの両面で全面的な導入が望まれています。

この考え方に強く共鳴 ―― やがて笛吹市観光振興計画にも位置づけられ、地域全体で取り組む流れが形になっていきました。

LAUNCH

「甲州リハ・サポツアーセンター」設立 since 2024

ゼロからの出発



甲州リハビリテーション病院

医療・リハビリの専門知見



石和温泉旅館協同組合

宿泊・観光の受け入れ体制



笛吹市

行政・地域振興の後押し



笛吹市医師会

地域医療機関との連携



山梨県立大学

調査・人材育成での協働

笛吹市ユニバーサルツーリズム連携研究会



病院が主導するユニバーサルツーリズム事業は、全国的にも非常に珍しい取り組みです。

センターの支援内容



一人ひとりに応じた支援

- 車いすの種類を選択を含む福祉用具のレンタル
- 食事形態
- 入浴介助支援
- 移動への不安 など、個々の状況に応じて準備

旅館への設備助言・ホスピタリティ研修まで、看護師・介護士・リハビリテーション療法士らが一体となって旅を支えます。



チーム体制

看護師 × 介護士 × リハビリ療法士

専門職が旅の準備から当日の介助まで一体となってサポート



旅館との連携

設備助言 + ホスピタリティ研修

ハードウェアに関する助言とソフトウェアに対する研修
受け入れる旅館側の体制づくりまで支援

supported by めぐとも（株）

第1回 笛吹市ユニバーサルツーリズム連携研究会



温泉エッセイスト山崎まゆみ氏の講演会



第1回 福祉のまち基礎研修「車いす編」実技



第1回 福祉のまち基礎研修「車いす編」講演



モニターツアー実施



モニターツアーの参加者やホテル関係者などで行った意見交換会
＝ 笛吹市内

高齢者ら快適な滞在へ 石和温泉郷でモニターツアー

医療機関と連携した観光地づくりを推進する「笛吹市ユニバーサルツーリズム連携研究会」は、石和温泉郷のホテルでモニターツアーを実施した。歩行車などを利用する高齢者が参加し、施設の改善点などを確認。研究会は「石和温泉郷に来る人が快適に過ごせるまちづくりにつなげたい」としている。

研究会は市と石和温泉旅館協同組合、甲州リハビリテーション病院、山梨県立天教授で構成し、2024年1月に発足した。市内には温泉を活用したリハビリテーション病院が8施設あり、東京圏からのアクセスの良さも生かし、障害者、高齢者など誰もが安心して過ごせる観光地を目指している。

モニターツアーは2月下旬に、市石和町内のホテル古柏園と石和常盤ホテルで実施。歩行車を利用する90代女性と娘、車椅子を使う60代女性と夫がそれぞれのホテルで1泊2日で滞在した。宿泊後、参加者がホテル従業員や市の担当者らと意見交換し、場所によって照明が暗く感じたことや、段差のため車椅子での通行に注意が必要だったことを説明したという。一方で「石和温泉が素晴らしいことに気付いた」との感想もあった。

〈鈴木なつ美〉

甲州リハ・サポツアーセンターHP の紹介

甲州リハ・サポツアーセンター

Rehabilitation support tour center

旅からはじまる、やさしいまちづくり

一歩を踏み出す旅は、誰かとの出会いのはじまり。

私たちは、ユニバーサルツーリズムを通して”やさしさがめぐるまち”を育てます。

行く人も、迎える人も、支える人も。そのすべての想いが、まちの未来をあたたく照らします。



👉 ホームページ QR

RESULTS

実績と評価



観光庁の補助金事業

に採択



モニターツアーを実施

今春実施、温かい声をいただく



「人に優しい地域の宿づくり賞」

第29回にて、リクルート「じゃらん」賞を受賞

観光庁「ユニバーサルツーリズム」優良事例に選出（山梨県初）

全国の先進的な取り組みのひとつとして紹介されました

観光庁 旅行会社向けマニュアルに掲載（山梨県初）

受け入れ事例として掲載され、全国への波及が期待されます

ユニバーサルツーリズムによるケアラー支援



ケアラーが直面する課題

- 要介護者から目を離せず、外出や旅行をあきらめてしまう
- 自己実現の機会喪失・社会的孤立
- 休む間もない介護で心身の負担が蓄積していく



甲州リハ・サポツアーセンターのユニバーサルツーリズム

- PT・OT・ST等のリハビリ専門職が同行し、医療的配慮が必要な方でも安全に外出できる
- 移動・宿泊・観光の各場면을きめ細かくサポート
- 要介護者と家族が“一緒に”旅を楽しむ

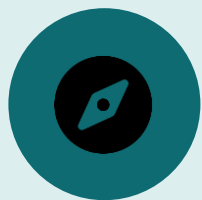


ケアラー支援としての効果

- 介護を「外」へ持ち出す、新しい形のレスパイト
- 気分転換と社会的孤立の解消
- 家族の思い出づくり＝「幸福寿命」の実現

県民一人ひとりが自由な選択をし、活躍できる「介護離職ゼロ社会」の実現

取り組みは、まだ道半ば



県内での認知度は十分とはいえません

ケアラーを含め、旅を諦めている多くの方々に、この仕組みはまだ届いていません。



自治体からのサポートが必要です

財源の確保に課題があり、病院の自主的な取り組みに依存。
継続と拡大には安定した予算の確保が不可欠です。

CLOSING

ユニバーサルツーリズムは幸福寿命を延ばし ケアラー支援も実現できる有用な手段です



病院が地域の観光と手をつなぐことで、健康寿命の先にある幸福寿命を一日でも長く延ばしていきます。

ケアラー支援 介助の代行や付き添いで負担を軽減し、本人だけでなく介護するご家族にも休息と旅を楽しむ時間を届けます。

法人理念 心をこめ保健・医療・福祉で地域貢献

医療法人銀門会 甲州リハビリテーション病院 × 石和温泉旅館協同組合 × 笛吹市 × 笛吹市医師会 × 山梨県立大学
甲州リハ・サポツアーセンター

summary

誰もが旅を楽しめる「福祉のまち」へ：2025年度 甲州リハ・サポツアーセンター 活動サマリー



リハビリテーション病院が全国屈指に多い地域特性を活かし、専門的な知識と経験を観光と融合させ、街全体を「福祉（ホスピタリティ）」の心で満たすことを目指します。

福祉のまち 4つのステップ



私たちが目指すもの…

私たちは、「福祉のまちづくり」を通して、人と人が支え合い、地域の幸福寿命を延ばすことを目指しています。

「もう一度あの場所へ」「大切な人との思い出をつくりたい」という想いを大切に、ユニバーサルツーリズムを通じて、誰もが安心して旅を楽しめる仕組みをつくります。



2023年～：産官学連携の開始



これまでの経過と具体的なアプローチ

4回にわたるモニターツアーの実施



4回にわたるモニターツアーの実施

2025年2月～10月にかけて、歩行器や車いすを利用する高齢者を対象に実際の宿泊施設での入浴介助や移動介助を含むモニターツアーを実施し課題を抽出

福祉のまちづくり研修会の開催



福祉のまちづくり研修会の開催

観光事業者向けに「車いす編」や「認知症編」などの講義・応用研修を実施し、地域全体の受け入れ態勢を整備。

甲州リハ・サポツアーセンター 4つの役割

① 人（人材育成・当事者支援）



リハビリ専門職、看護師、介護福祉士、管理栄養士などの医療・介護の専門職が旅行に同行し、入浴・移動・食事を専門的視点からサポートします。

② 育成（観光事業者向け研修）



ホテル・旅館等のスタッフを対象に、実践的な介助方法やユニバーサルツーリズムの理解を深める研修を行ない、地域全体のホスピタリティを向上させます。

③ 環境（福祉用具レンタル）



プロの視点から身体状況に適した用具（歩行器、入浴補助具など）を適合し、導入から運用までをサポートすることで、安全な滞在環境を構築します。

④ 相談（環境調査・アドバイス）



宿泊施設を詳細に調査し、段差解消や手すり設置などの施設改修、あるいは代替用具の活用による「バリアパス」を提案します。

2025年度末～今後の展開



入浴介助付き旅行パッケージの販売開始

2025年12月より、専門職による入浴介助サービスを組み込んだ旅行商品の販売を開始し、ユニバーサルツーリズムの事業化を本格化。



シビックプライドの醸成

住民が自分らのまちに誇りを持てる「優しさあふれるまち」を深化させていきます。

2026年度 甲州リハ・サポツアーセンター 活動実績報告

～観光と医療の融合が拓く幸福寿命の延伸～



外部評価・受賞（公的機関による信頼の証）



観光庁「ユニバーサルツーリズム優良事例」選出（県内初）

バリアフリー旅行相談窓口として、山梨県内で初めて観光庁の事例集に掲載されました。

観光庁「旅行会社向けマニュアル」掲載（県内初）

旅行会社が利用できる全国の相談窓口として、信頼性が公的に担保されました。



第29回「じゃらん賞」受賞（6月16日公表）

高齢者や障がい者が安心して楽しめる環境づくりへの貢献が、観光業界の主要アワードで高く評価されました。



観光で幸福寿命を延伸し、それを病院が支える

医療的バックグラウンドに裏打ちされた
安心・安全な旅を提供し、
すべての人の心躍る旅を当たり前にする
社会を目指します。

広報実績（認知度と一体感の醸成）



山梨日日新聞への掲載（6/10・7/21）

地域住民への周知（6/10）に加え、理事長による「観光で幸福寿命」をテーマとした論考（7/21）を掲載。



院内広報誌「自分の時計」への展開

センターのビジョンを組織内へ浸透させ、医療スタッフの観光支援への参画意識を高めました。

オリジナルユニフォームの導入（20着）



現場でのプロフェッショナル・アイデンティティ確立と、非言語コミュニケーションによる安心感の提供。



事業採択・視察（次世代サービスの開発）



観光庁 補助金事業への採択

地域観光資源のコンテンツ化を加速させるプロジェクトとして、持続可能な事業モデルを推進。



伊勢志摩（6/19-20）への視察調査

UT先進施設である「伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」等で国内最高峰のノウハウを収集。



総括（2026年度の成果）



医療的裏付けのある観光推進の確立

第三者機関による客観的評価により、センターの社会的信頼性が盤石なものとなりました。



「スマート・エイジング・ツアー」の具現化

補助金事業を通じ、理念を具体的なサービスへと昇格させた革新的なビジネスモデルです。

山梨日日新聞

健康寿命 5UP キャンペーン

健康新聞 シャキッと

豆知識

企業・制作/山梨日日新聞社と地元企業

メディア取材 実績 (TV、新聞)



医療プロがサポート「誰でも入浴を」
石和温泉で新たなツアー

県内
笛吹市、石和温泉旅館協同組合
甲州リハビリテーション病院が中心となり推進



医療プロがサポート「誰でも入浴を」
石和温泉で新たなツアー

ツアー
事前聞き取りをもとに医療のプロが
体調を確認しながらサポート
→ 本人や周囲の負担軽減



「幸福寿命」という言葉を「幸福寿命」といいます。健康寿命が延びた後、その間に自立して生活できる期間を示す「健康寿命」が重要になってきます。健康寿命が延びた後、その間に自立して生活できる期間を示す「健康寿命」が重要になってきます。健康寿命が延びた後、その間に自立して生活できる期間を示す「健康寿命」が重要になってきます。

観光で幸福寿命 病院が支える



佐藤 吉冲
医療法人銀門会 理事長

断的に進展する仕組みは十分ではありません。新しい三三ナウイリス感染症の流行で温泉地が大きな打撃を受け、中、東京オリピック・パランピックの開催も重なり、障害があっても高齢であっても誰もが安心して温泉地を楽しめるまちづくりを進めたいという思いが強くあります。それは、健康寿命を失った方々の幸福寿命を、医療者の手で支えたいという思いでもありました。

さとう・よしおきさん 1965年生まれ。山梨医科大学(現山梨大学医学部)卒。同大病院医師を経て2002年に医療法人銀門会・甲州リハビリテーション病院院長。同病院院長、甲州ケア・ホーム施設長などを歴任し、25年から現職。日本リハビリテーション病院・施設協会副会長。

誰もが旅を楽しめる環境に。ユニバーサルツーリズムとは？

ゆつくり温泉に浸かったり、観光地を巡ったり、その土地の美味しいものを食べたりの心身を癒やし、心豊かに過ごす旅。しかし、年齢や障害などを理由に出かけることに不安を抱き、旅をあきらめてしまう人も少なくありません。山梨県内では笛吹・甲州リハビリテーション病院が中心となり、石和温泉のホテルや旅館での入浴などのサポートを始め、だれもが気軽に、安心して楽しめる旅の仕組みづくりを進めています。



体験ツアーで入浴を楽しむ利用者＝笛吹市内

障害の有無や年齢関係なく安心して楽しめる旅の環境づくりを進めています。この「ユニバーサルツーリズム」と呼ばれる観光スタイルが「誰もが気軽に」参加できる旅行」として整備する考えで、全国的に取り組みが始まっています。県内では、2年前から同病院と笛吹市、石和温泉旅館協同組合、同市医師会、県立大が研究会を立ち上げ、高齢者による体験ツアーなどを行いながら、普及に向けて意見交換や研修を進めています。

光地への移動や専門的な視点から支援する体制を整えています。同センターでは、利用者からの依頼を受けるなど、当日までに施設の設備などの環境調査を行った上で、どのようにしたいかなどを事前に確認し、希望を伺ったりして準備を整えます。当日は本物の流れを再現し、利用者の希望に沿った形でサポートします。安心して温泉を楽しめるように、歩行の準備など専門的な支援から、いざという時のための「お守り」まで整えています。

甲州リハ・サポートセンターへの相談、依頼は
電話(055-262-3121)か
メールrhisapo@krg.ne.jpで受け付けています。